

進路だより みちしるべ



令和3年4月30日発行 第4号

～第1回進路希望調査について～

本日、第1回進路希望調査用紙を配布しました。今回の調査では、大まかな方向性を確認したいと考えています。多くの中学生は「高校への進学」と口にしますが、中学卒業後の進路は、高等学校だけではありません。専門学校や各種学校への進学や、就職することもできます。まずは生徒本人と保護者が、膝を交えて将来のことを話し合ってください。調査結果をもとに、6月4日（金）～14日（月）に実施する生徒との二者面談（教育相談）を実施します。

提出は、5月6日（木）までをお願いします。

やれなかった やらなかった どっちかな

相田みつを(詩人)

自転車に初めて一人で乗れた日のことを思い出してみよう。

お家の方に連れられて空き地で自転車に乗る練習をした(かな?)。何度も転んで、すり傷を作りながら泣く泣く練習をした人もいるでしょう。

その時のあなたの自転車の上達はどんな感じでしたか?

「今日は一人で3m乗れたよ。昨日は2mだけだったのにね。じゃあ、明日は4m乗れるね。」という具合にはならなかったと思います。

ある日、いきなり自転車に乗れる瞬間がやってきた。そして、その日は夢中になって自転車に乗り続けていたのではないですか?上達はある日突然にやってくるのです。

本格的に英語を勉強している人がよく言うことなのですが、最初は外国人が普通にしゃべっている英語が何のことやら、さっぱり分からないのですが、我慢して勉強を続けていると、ある日突然、英語を意味のある言葉として聞き取っている自分に気がつくというのです。それが3ヶ月が経とうとするころであるそうです。

私たちの学校の勉強も同じ。さあ3年生になったことだし…と思って始めた受験勉強。でもなかなか目に見える効果が出てない。順位も上がらない…。いったい、いつになったら成績が上がるのか…。

本当に一生懸命勉強を始めて、目に見えて成績が上がり始めるのは、どのくらい日数がたった後だと思いますか?答えは90日から100日を過ぎてから。つまり3ヶ月後。

ということは、6月から本当に真剣になって勉強を始めたとしても、夏休み明けのテストでやっと少し成果が出始めるということになります。

どんなことにも、取り組んだ以上には、3ヶ月後の成果が出るまでは頑張ってみないともったいないですよ。



勉強のツボ

～問題集の使い方～

向山洋一さんが書いた『塾だけでは実力がつかない向山式中学生の家庭学習』という本の中に、問題集の効果的な使い方が書かれていました。それがどんなものかを今から紹介します。

まず、そんなに厚くない問題集を選びます。そして、問題を解いていくのですが、答え合わせをして、合っていれば下の図のように斜線で問題番号を消します。

~~(1)~~

間違っていれば、下の図のようにチェックを入れます。

✓(1)

これで終わりではありません。向山さんは次のように言います。

問題集を一生懸命やって、勉強したつもりになるが、実のところ「できた」「できなかった」の区別をしたに過ぎない。極端に言えば、ここまでのことなら、問題集をとかなくても「できる」ものはできたし、「できない」ものはできなかったのである。問題はここからなのだ。

向山さんは同じ問題集を繰り返すことを強調します。

「できなかつた」問題を「できる」ようにすることが勉強だということです。

ただし、2回目は前回間違えた問題、つまりチェックを入れた問題だけをする。2回目に正解できたら、問題番号を斜線で消す。2回目で正解した問題は下のようになります。

✓~~(1)~~

2回目も間違えた問題は次の図のようになります。

✓✓(1)

2回目が終わったら、3回目をする。当然、2回とも間違えた問題だけすればよいのです。

3回目も間違えたら次のようになります。

✓✓✓(1)

そして、4回目に取りかかります。

超難関高校を目指していた向山さんは、受験勉強のために、5教科、5冊の問題集を準備したそうです。そして、5冊の問題集の1回目が終わるまでに1ヶ月ちょっとかかったそうです。しかし、2回目は3週間で終わったそうです。3回目は1週間で済み、4回目はなんと3日間で終わったそうです。こういう方法で、問題集をマスターした向山さんは次のように言っています。

この問題集に出ていることなら、どこが出ても全てできるという自信があった。この自信は大きかった。

それ以後、どんな問題を見ても「できるはずだ」と思うようになったのです。

このあと、成績が急上昇したそうです。



『塾だけでは実力がつかない向山式中学生の家庭学習法』より

(主婦の友社)

